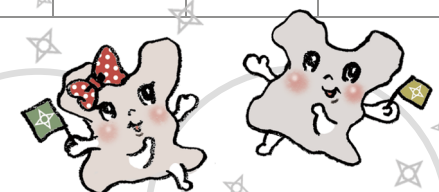




気の中で、
 地域の歴史
 や魅力を再
 認識するこ
 とができた
 講演会でし
 た。

[illegible]

(令和元年9月発行)



盛岡舟つゝこ流し

舟っこ流しは、灯籠(とうろう)流しとともに先祖の霊を送り無病息災を祈る伝統行事。その歴史は約280年前にまでさかのぼるとも言われており、市の指定無形民俗文化財に指定されています。

魅力再発見「松園、いいよね！」

7月20日（土），松園地区まちづくり委員会 環境安全部会（佐藤英司部会長）は，これまでの活動内容を振り返り，今後の活動のあり方を検討するため，まち歩きを実施しました。コースは，毎年ホテルの観察会等を行っている「松園子ども自然観察園」から，昨年，ひょうたん池の泥上げ・生き物保護大作戦を行った「緑の里近隣公園」まで。途中，近隣住民により手入れされた「東松園四丁目の法面」や，緑地の樹木などを観察しました。同部会では，まち歩きで見聞きした状況をふまえ，松園の魅力向上のため，今後どのような活動を展開するか，改めて検討していきます。



※松園地区自治協議会（工藤健一会長）は，平成25年10月に、『松園地区 地域づくり計画書』を策定。「松園地区地域協働推進委員会」を中心に，様々な事業を行ってきました。事業開始から5年を迎えたことを機に，事業内容や組織を見直し，令和元年5月に「松園地区地域協働推進委員会」を「松園地区まちづくり委員会」と改称。5つあった専門部会を，3つに統合しました。

ILCで世界につながるまち 盛岡市民大会

7月25日（木），市と“世界につながるまち盛岡”市民会議は，ILC誘致に向けての機運醸成と市民意識のより一層の高揚を図るため，「ILCで世界につながるまち盛岡市民大会」を開催しました。会場となったいわて県民情報交流センター（アイーナ）の小田島組☆ほ〜るには，市民ら約250人が集結。ILCの誘致が実現することによって地域の経済や産業にもたらされる影響について，理解を深めました。



講演「ILC(国際リニアコライダー)計画の現状と盛岡の役割」



大会の前半では，岩手県理事兼政策地域部ILC推進室の佐々木淳室長による「ILC（国際リニアコライダー）計画の現状と盛岡の役割」と題した講演が行われました。

佐々木室長は，ILCの誘致が実現した場合，研究者や留学生など，少なくとも数千人規模の外国人の流入が見込まれるとの試算を公表。市民の国際理解の推進と，外国人受入れ環境の更なる整備の必要性を呼びかけました。

なお，日本政府も本年3月にILC誘致についての関心を表明しており，10月には仙台市でリニアコライダー国際会議「LCWS2019」の開催が決定しているなど，今まさに誘致に関わる重要な局面を迎えていると言えます。

パネルディスカッション「ILCで世界とつながる盛岡のまちづくり」



後半は，「ILCで世界とつながる盛岡のまちづくり」をテーマに，パネルディスカッションが行われました。

コーディネーターとして，岩手県立大学の石橋敬太郎教授が登壇。パネリストとしては（公財）盛岡国際交流協会登録ボランティアのゴンザレス・カルロス・ハビエル氏，（公財）盛岡観光コンベンション協会の大櫻薫氏，（一社）盛岡青年会議所の伊藤淳之介理事長の3名が登壇。道路案内標識や時刻表の多言語表示といったハード面での国際化のみならず，幼いうちからの多文化教育といったソフト面からのアプローチも重要であるとの指摘がされ，多角的な国際化の必要性が議論されました。

アイレシー ILCとは？



ILCとは，国際リニアコライダー（International Linear Collider）の略で，国際協力によって設計開発が推進されている次世代の直線型衝突加速器のことです。

電子と陽電子を光速に近い速度まで加速させて正面衝突させることで，宇宙の始まりとされている「ビッグバン」から1兆分の1秒後の状態を人為的に再現することができ，宇宙誕生の謎等を解明できると考えられています。